

## 「学務官僚遭難之碑」の移設計画はなかった

常務理事・事務局長

柚原 正敬



横倒しになっていた当時の「学務官僚遭難之碑」(2000年10月)

## 学務官僚遭難之碑の移設問題

台北市郊外にある芝山巖しざんがんは台湾教育発祥の地である。

本年三月下旬、台北市文化局長がこの芝山巖に建立されている伊藤博文揮毫の「学務官僚遭難之碑」を移設する方針を固めたと台湾紙「聯合報」(三月二十三日付)などが報道した。

二月に台北県政府により、高砂義勇隊慰霊碑の関係記念碑が理由らしい理由もなく一方的に撤去されるといふ醜悪な事件が起こったばかりで、日本李登輝友の会も小田村四郎会長が抗議声明を発表したが、これは国民党主席で台北市長を兼任する反日的な傾向が強い馬英九ばえいきゅう氏の影響下にある呉長(県知

事)の考え方に基づいていたようだ。

そこで、台北市よお前もかと、関係者は気を揉んだ。これまで「学務官僚遭難之碑」を見守ってきた士林国民小学の校友会も、林振永・名誉会長などが台北市に抗議したという。

また、中央放送局の台湾国際放送日本語課は、日本のリスナーがぜひ正確なところを知りたがっていると、担当する台北市文化局第二科に確認したところ、そもそも「学務官僚遭難之碑」を移設する計画はなかったと明言し、そのまま残されることが判明した。

台北市内には日本時代の史跡もまだまだ多く、それらをきちんと修復して、歴史的な説明をつけることも話しており、この「学務官僚遭難之碑」の傍

裁と腐敗の政治を隠蔽し、責任を転嫁するための口実に過ぎない」(「台湾」)と喝破している。

## 芝山巖は台湾教育の聖地

そもそも「学務官僚遭難之碑」は明治二十九年(一八九六年)一月一日、台湾人を教育する芝山巖学堂の日本人教師六名(六氏先生)が、台北にある総督府の新年拝賀式に臨もうとして山を降りたところ、匪賊に殺害されたことを悼み、視察のために訪台していた内閣総理大臣の伊藤博文が題字と碑文を揮毫したものである。

この建碑式は同年七月一日に慰霊祭を兼ねて芝山巖で行われ、碑には殉職した六氏の氏名も記されている。年齢順に並べれば次のようになる。

楫取 道明(39歳、山口県)  
関口長太郎(38歳、愛知県)  
桂 金太郎(28歳、東京府)  
中島 長吉(26歳、群馬県)  
井原順之助(25歳、山口県)

平井 数馬(19歳、熊本県)  
ちなみに、楫取道明は小田村会長の祖父に当たる方である。

その後、全島の学校関係職員で構成する台湾教育会が発足し、碑の管理運営に当たり、毎年二月一日に例祭を斎行していた。明治三十八年の十年祭には「台湾亡教育者招魂碑」を建て、この傍らに日本人と台湾人の別なく、公私の別なく、台湾の教育に従事した関係者や功労者を合祀して氏名を刻んだ「故教育者姓名碑」を建立した。

昭和三年(一九二八年)に至り、台湾教育会は昭和天皇即位記念事業として芝山巖神社の造営を決めて寄付金を募り、その年の十二月に竣工、六氏先生を含む全ての亡教育者を合祀している。昭和十年には三百八十五人、同十七年には五百二十九名に達している。自らも台中で教師を務めた篠原正巳しのはらまさみ氏は「芝山巖事件の真相」で、その意義について次のように記している。

「この時代に台北市の学校に通った者

らにも、どうしてこのような事件が起きたのかという説明板をつける計画があるそうだ。

日本李登輝友の会でも直接、台北市の文化局に問い合わせ、同様の返答を確認している。

何とも拍子抜けする結果となった。まだまだ気は抜けないが、今回は杞憂に終わり関係者も安堵している。

それにしても、統一派系の「聯合報」がなぜそのような記事を捏造したのか理由は定かでないが、日本統治時代の教育は台湾人を日本人の奴隷とするために行われたとし、日本精神に毒された台湾人を再教育するとして中国人化教育をしてきた戦後の国民党教育の影響が根強く残っているようだ。

台湾人の友人の話によれば、学生時代に「上海から北京に行くには何線に乗り、どこで乗り換えるのか」などという試験問題が出たという。伊藤潔氏は国民党が日本時代の教育を奴隸化教育と決めつけた理由を「みずからの独

は、日台の別なく芝山巖に通った思い出がある。教師や生徒を含め、教育の聖地として護られ、教育を大切にすることを養うのに役立っていた。また市民にも親しまれ、師道を尊ぶ住民感情とも乖離ひだりしたものはなかった」

戦後、国民党政権によって芝山巖神社は取り除かれ、六氏先生のお墓や関係碑も破壊され倒された。

だが、一九九五年(平成七年)六月一日、士林国民小学は創立百周年を挙行している。これは芝山巖学堂が開設された一八九五年を創立年としているからだ。同時に、卒業生有志は六氏先生のお墓を再建した。また、二〇〇〇年末には、長らく横倒しになってベンチと化していた「学務官僚遭難之碑」が台座も復元して再建された。

しかし、「学務官僚遭難之碑」が災難に遭わないとは言えないのが台湾の今の状況だ。高砂義勇隊慰霊碑の二の舞にならないよう、日台が力を合わせる時である。